

# 君に薦める一冊の本



2016

大阪工業大学図書館

2017.03.31 発行



『ながい坂』上・下巻 山本 周五郎著 / 新潮社文庫

大宮本館：91161323（上巻）91161324（下巻）

枚方分館：98161161（上巻）98161845（下巻）

NO  
PICTURE

先日、インターンシッププログラム総括報告会に出席したが、来年度に就職を控えた学生諸君が期間中、有意義な時間を過ごしたと報告があった。続いて、受け入れ機関の企業の皆様の報告は、社内が活性化された、人材教育のよい機会であった。と、嬉しい意見もある反面、大学への注文もあり、“できるだけ現場体験をさせるような授業を早くから取り入れてほしい” “コミュニケーション能力の強化” “人間力を高める教育の要請” など要望もあった。

ここで、私の学生時代の体験として、また、就活に関わる一冊の本として、山本周五郎の代表作『ながい坂』を推薦する。大学生時代に何度も読み返した記憶があるこの本は、その後、映画やテレビドラマで何度も上映されているようで、決して難しい本ではない。人生を長い坂と考え、紆余曲折を経て自分自身を模索する物語である。

#### 【あらすじ】

平侍の息子で主人公の小三郎は八歳のとき胸を刺されるような出来事を経験した。父に連れられて魚釣りに行く時、堀にかかった小橋を渡っていたが、ある日突然その橋が壊され、藩重役の小者に、「邸内にある学問所の邪魔になるから、ここを通行するな」と追い返されたのである。道や橋などの山や川と同様に不動であると信じて疑わなかったものがなくなるといふ衝撃を受けた。また、父親が卑屈な態度を取ったのも、屈辱感を増す出来事となった。

この屈辱を味わった小三郎は、人が変わったように文武両道を求めて努力を重ね、名門師弟だけが通える「尚功館」に入学を許可される。ここでも、小三郎が優秀なだけに「徒士組平侍の子」とののしられる。しかし、文武とも優秀な成績を収めて尚功館を卒業すると、全教官の推薦の元に殿様付きの小姓に抜擢された。小三郎は若い殿様と藩内をくまなく視察しながら、過去に河川に堤防を作るなどの土地開墾計画があったことを具申したりした。殿様は小三郎の実力を認め、軍奉行の与力、町奉行与力など異例の昇進を重ねることとなる。これに対して彼が徒士組出の平侍であることは陰で嫉妬と反発を呼び、軋轢を増幅させる。それでも彼は少年時の屈辱をばねに突き進もうとしたが、夜一人になると「重いな、重すぎる」と弱音を吐くこともあった。

やがて、若き藩主によって、大堰堤工事を推進する計画が持ち上がった。堤防を作り、川の水を引いて新田を作るという大工計画である。そのころ小三郎は藩の名門三浦家を継ぎ、三浦主水正と名乗っており、この計画の責任者となった。新田を作ることは、もちろん米を増産することが目的だったが、それだけではなく、「農、産、商業の根もとを握っている大地主、五人衆といわれる大商人、そして、これらに支えられている藩の重臣たち」を大きく揺さぶることも狙いだった。当然、反発は大きく、工事は何度も妨害され、主水正は命を狙われた。身を隠して生活することを余儀なくされ、人々に混じってうどん屋をやったりもする。そうしてやり遂げた後に、主水正は殿様に次ぐ城代家老にまで登り詰める。彼は自分の半生を省みて次のように言う。

「おれは少年のころから、脇見をする暇さえなく、けんめいにながいを登ってきた」（中略）「多くの困難や、むずかしい仕事や、いのちを覗れたことさえある」（中略）しかし、今日までは自分の坂を登ってきたのだ、と彼は思った。

「そして、登りつめたいま、おれの前にはもっと険しく、さらにながいがのしかかっている」（中略）「—そしておれは死ぬまで、その坂を登り続けなければならないだろう」

（引用元：下巻543-544 頁）

おこがましくも、私は身近な人に自分自身の山（大きな山か小さい山か知らないけど）を作っては、と話すことが多い。これは、私が過去に読んだ『ながい坂』が原点だと改めて思った。皆さんもぜひ読んで、自分自身の人生あるいは自分の山を見つけて探ってみてほしい。



コンピュータ科学科

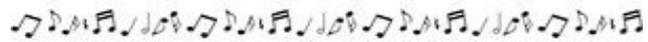
奥野 弘嗣 先生 推薦

『銃・病原菌・鉄』 上・下巻

ジャレド・ダイヤモンド著 / 草思社

大宮本館：91150867（上巻） 91150868（下巻）  
枚方分館：98161844（上巻） 98,161,845（下巻）

1万3千年前、世界中どこも等しく石器時代だったにも関わらず、ここ数百年における科学・技術の振興・発展はヨーロッパに集中し、富も権力もヨーロッパに集中しました。本書は、この不均衡を引き起こした原因についての著者の仮説（不均衡を生み出したものは、地理的な要因であり、（人種差別的な）民族優劣の差異ではない）を、力強く解説します。堅い話ばかりというわけではなく、基本的には「なぜ農耕を始めた人と、始めなかった人がいるのか」や「なぜウマは家畜化されたのに、シマウマは家畜化されなかったのか」等、興味深い 話題の連続なので、こういった事に興味のある人は、どんどん読み進められると思います。



NO  
PICTURE



情報ネットワーク学科

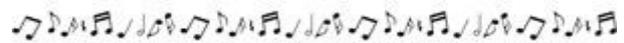
福澤 寧子 先生 推薦

『「心の掃除」の上手い人 下手な人』

斎藤 茂太著 / 集英社

大宮本館：91170453 枚方分館：98120131

私たちの生活の中でありふれた状況が軽快な表現で語られ、気がつくとページを捲って読み進めてしまう。つい悲観してしまうような状況も、著者は前向きに捉え、私たちが状況を整理するヒントを示してくれる。今日からできる「掃除」方法が盛り沢山で、「掃除」上手になることも夢じゃない？ 心を整えたいと思ったときにぜひ手に取ってほしい。



NO  
PICTURE



空間デザイン学科

郡 裕美 先生 推薦

『モモ』

ミヒヤエル・エンデ著 / 岩波書店

大宮本館：19703728 枚方分館：80301444  
19703727

時間って何なんだろう？ 忙しく毎日を送る学生のみんなに、新しい観点で時間について考えてほしい。生きている時間、自分の命を大切に、生きる意味についても考えられる。でも、この本は童話のように優しくてかわいい。忙しさに追われて疲れた時に、ふと手にとってほしい。

NO  
PICTURE



情報システム学科

## 横山 恵理 先生 推薦

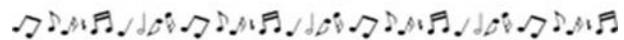
NO  
PICTURE

『源氏物語』 全六巻

大塚 ひかり 訳 / 筑摩書房

大宮本館：91170300（第一巻）91170301（第二巻） 枚方分館 98161878（第一巻）98161875（第二巻）  
91170302（第三巻）91170303（第四巻） 98161875（第三巻）98161876（第四巻）  
91170387（第五巻）91170304（第六巻） 98161877（第五巻）98161878（第六巻）

古典のお堅いイメージを覆すのが大塚ひかり全訳『源氏物語』である。原文を重視した現代語訳、「ひかりナビ」と称するナビゲーション、各巻末の豪華付録（「一目で分かる年中行事」から「源氏のセックス年表」まで!）によって、時代状況や、花鳥風月や当時の流行歌謡の意味する性的暗示、登場人物の心理状態や関係性が詳しく理解できるようになっている。読めば読むほど、現代とは全く異なる価値観が存在したことに驚き、今までの「常識」が覆されていく面白さを味わうことができる。ぜひ本書で『源氏物語』のパワーを感じてほしい。



生命工学科

## 長森 英二 先生 推薦

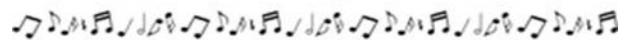
NO  
PICTURE

『数学する科学』

森田 真生 著 / 新潮社

工大大宮：91161479 枚方分館：98161083

工学者は、現象理解や設計を定量的に進めるために数値や数式を利活用することが欠かせません。一方で、数字や数学を学校では長い時間をかけて習って来たものの、そのそもそもの成立ちを考えてみた経験は少ないと思います。本書は文系学部から数学の世界に飛び込んだ著者が執筆しており、前半から中盤にかけて古代からの数字や数学の成立ちを平易に解説しています。数値や数式を頻繁に取り扱う工学者として、知っておいたら楽しい知識・トリビアが詰まっています。試しに紙面を覗いてみませんか？



建築学科

## 向出 静司 先生 推薦

NO  
PICTURE

『ピーター・ライス自伝 あるエンジニアの夢みたこと』

ピーター・ライス 著 / 鹿島出版会

大宮本館：11601139 枚方分館：81600927

シドニーのオペラハウス、パリのポンピドゥーセンターなど世界的に評価が高い建築物を多く手がけた世界一有名な構造設計者の自伝です。

「超」が付くほど難しい数々のプロジェクトをいかにして成功に導いたのか、エキサイティングな日々がつづられていま、建築分野の中ではあまり陽の当たらない構造設計という仕事の魅力を存分に味わうことができる一冊です。



## 『三国志 一～十巻』

吉川 英治著 / 新潮社

工大大宮：91161606（一巻）91161605（二巻）91161603（三巻）91161604（四巻）  
91161602（五巻）91161631（六巻）91161601（七巻）91161600（八巻）  
91161599（九巻）91161598（十巻）

枚方分館：98161397（一巻）98161398（二巻）98161399（三巻）98161400（四巻）  
98161401（五巻）98161402（六巻）98161403（七巻）98161404（八巻）  
98161405（九巻）98161406（十巻）

NO  
PICTURE

工大生の皆さん、特に新入生の皆さんにお薦めしたい本が、吉川英治著の「三国志」です。この本は、遠い昔、私自身が大学に入って最初に読んだ長編小説でした。なぜ「三国志」だったかと言うと、高校卒業の時に担任の先生から「理系に進学する人は、大学に入ったら理系の本ばかり読むことになるので、ぜひ文学作品を読むようにしなさい」と言われ、一番のお薦めが「三国志」だったのです。その頃の「三国志」は講談社刊の立派な箱入りの全集ものの三冊組しかなく、文庫本はまだ出版されていませんでした。大学1年生には非常に高価でしたが、アルバイトをして先ず一冊を買い、読み始めたら止まりません。夜明けまで読み耽り、次の日に二冊目を買い、あっという間に三冊とも読み終えた記憶があります。何ととっても非常に面白いのです。冒頭、黄河のながれに佇む青年が、やがて思わぬ形で危難に巻き込まれ、手に汗握る展開が始まると小説の舞台に引き込まれて、どんどん読み進まずに居られなくなります。皆さんにも是非この醍醐味を味わって頂きたいのです。

この本は、小説というものが如何に面白く為になるかを教えてくれた本でした。高校までは小説などは殆ど読んだことがありませんでしたが、「三国志」をきっかけに国内外の文学作品や社会・経済分野にも興味を持つようになり、読書の習慣が身に付いた最初の一冊になりました。

「三国志」は西暦180年頃から260年頃までの中国大陸で、魏、呉、蜀の3つの国が覇権を争い鼎立した三国時代の物語です。戦国歴史物ですから武将の活躍や戦術・戦略の巧妙さが軸となる一方で、信義を重んじる生き様や裏切りへの因果応報なども描かれ、こころを動かされるセリフや知恵に満ちた名言が至るところに散りばめられています。

著者自身が「序」で述べているように、全体の構想は雄大で、地域の広がり、時間の流れも壮大なものです。主人公と目される人物を中心にざっくりとあらすじを紹介すると次の如くでしょうか。

冒頭に登場する若き無名の青年・劉備玄德（後に蜀王）が、実は衰退しつつある漢の王族の末裔であると知らされ、最強の武将と言われる関羽と張飛と出会い、後漢末期に民衆を蹂躪する「黄巾の乱」の平定に活躍します。後半は劉備が有名な諸葛孔明を「三顧の礼」を尽して参謀として迎え、呉の孫権と組んで魏の曹操を「赤壁の戦い」で打ち破り、蜀の建国の足掛かりを得ます。魏の国がやがて中国北部を支配し、蜀は南方を呉と二分して中国南西部を拠点としますが、徐々に魏の勢力が拡大し、劉備、孔明の死とともに蜀の国は衰退してしまいます。

「三国志」には横山光輝作の漫画版やテレビの人形劇版もあり、またゲームの題材としても人気が高い物語ですが、皆さんには是非とも吉川英治の「三国志」をお薦めします。現在では文庫本で手軽に読めますし、青空文庫から無料ダウンロードしてスマホでも読むことができます。この極めて面白い小説を先ずは十分に楽しんで頂き、そしてこの本をきっかけに他の文学作品や社会・経済分野の本もたくさん読んで、人の生き様や社会の動きを知り、物事を深く考える力を養って頂きたいと願っています。

※図書館報『ぱびろにくす』103号にご寄稿いただきました。||



本校教授の方々からおすすめの本を紹介していただきました。



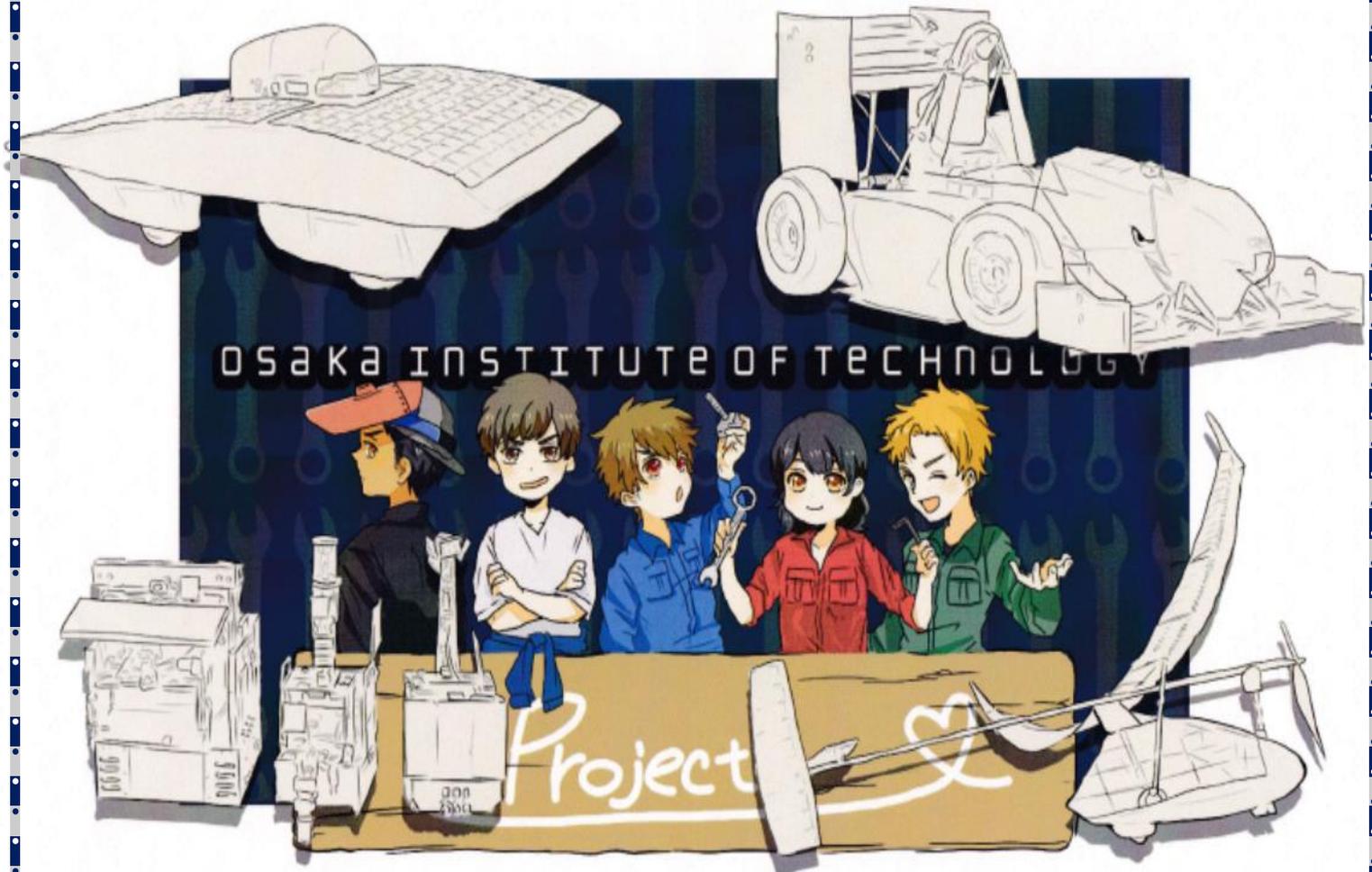
勉強 研究と忙しい日々の合間に、ぜひ手に取ってみてください。



図書館内「君に薦める一冊の本」コーナーに展示しています



君に薦める一冊の本



2016年度 ウォッチング大賞 大賞受賞作品